

目の前で誰かが倒れた時
あなたは何かができますか

救急車？人工呼吸？AED？…
冷静な判断ができるでしょうか

日頃から救急救命に関心を持ち
正しい知識を持っていなければ
突然の出来事に混乱してしまい
救えたはずの命を
失ってしまうかもしれません

大切な命を守るには
そばにいるあなたの力が必要です
もしもの時に備え、
今できることを身につけましょう

とっさの応急手当で 社会復帰！

昨年、心肺停止状態の急病人に適切な処置をとり、その命を救ったという2件の救急事案がありました。

昨年8月、庭先にて夫婦で作業中、急に妻が倒れ、意識がなくなったため、体が不自由だった夫が周囲に助けを求めたところ、近所に住む佐久間としよさんと日下美樹子さんが駆け付け、救急車が到着するまで心臓マッサージと人工呼吸を行いました。

昨年12月、踏切で線路工事をしていた男性が急に倒れ、一緒に作業中だった樋口秀夫さんと八島広樹さんが、男性に脈がなく呼吸も正常にしていないことを確認し、心臓マッサージと適切な気道確保を行いました。

4月30日、白石消防署は賢明な救命に当たられた4人の方に感謝状を贈呈しました。また高橋署長は、「皆さんの勇気ある行動のおかげで助かった命だった。」と感謝の言葉を述べたあと「仙南地域は、面積が広いため救急車到着までの素早い対応が大切。今後も地域や職場での応急手当が普及していったほしい。」と応急処置の重要性を語りました。

迅速で勇気ある人命救助を行った皆さんですが、不安やためらいはなかったのでしょうか。
「自分のする人工呼吸に、本当に効果があるのかと迷いながらも、勇気を出して行いました。（日下さん）」「いつまで人工呼吸を続けたら良いのか不安でしたが、到着した救命士からの『やり続けて！』の声に、自信を持って救命に当たることができました。（樋口さん）」
いずれの急病人も、早期の有効な応急処置により、社会復帰するまでに回復しました。



▲感謝状を贈呈された4人
左から佐久間としよさん、日下美樹子さん、
樋口秀夫さん、八島広樹さん

もしもの時に